

西伊豆健育会病院 リハビリテーション科 西木 優

功 績 COVID-19の影響でリハビリ対象者が減っている中、知恵を絞り臨機応変な対応でリハビリ対象者を増やし、急性期患者さんへの早期リハビリテーション導入と病院経営にも大きく貢献した功績。

推 薦 者 小柳 拓也

推 薦 理 由 西木はスタッフ5名が所属するリハビリテーション科のリーダーとして、日々の業務に取り組んでいます。今回、COVID-19の影響で患者数が大きく低迷する中、リハビリ対象者を洗い出して増やす取り組みで、病棟のリハビリ・訪問リハビリともに昨年以上の実績をあげています。このように大きなピンチでも、たくましく、そして冷静に状況判断し数値を好転させた西木を理事長賞に推薦致します。

内 容

西木は勤続12年目の作業療法士で、リハビリテーション科のリーダーです。

今回、新型コロナウイルスの影響により外来患者・入院患者数が例年よりも大きく低下し、リハビリ対象者数にも影響していました。そんな中、西木はまず、各病棟におけるリハビリ対象者を洗い出しました。当院ではDPC病棟から地域包括ケア病棟へ転棟する方も多いことから、コロナ禍で新規の入院が少なくなると地域包括ケア病棟にリハビリ対象者の多くが入院しているという状況になりがちです。そこで西木はどのような疾患でも早期からのリハビリが重要である、という観点から、DPC病棟でリハビリの対象者となっていない人に目をつけ、疾患名と病状確認を行いました。そこで必要があると判断した患者さんは主治医へリハビリの必要性と効果について根拠を持って示し、オーダーを出してもらい対象者数を増やしていきました。救急のDPC病棟で早期からリハビリすることで筋力低下や心肺機能の低下も予防でき、また、DPC病棟でのリハビリは出来高での算定でもあり、経営にも大きく寄与しました。

また、西木は新型コロナウイルス感染拡大で落ち込んでいた訪問リハビリテーションの増患にも積極的に取り組み、退院する患者さんへ導入を促したり、近隣のケアマネと密に連絡を取るなどし、昨年以上の利用者数まで回復させました。

まだまだCOVID-19の影響は続くと思われていますが、知恵を絞り臨機応変な対応でリハビリテーション科の数値を好転させた西木を理事長賞に推薦致します。

DPC病棟	4月	5月	6月	7月	8月
2019単位	555	430	497	489	539
2020単位	515	659	556	719	813
2019金額	1,010,670	863,230	954,220	945,580	1,044,020
2020金額	917,350	1,219,510	1,086,140	1,371,800	1,465,860